



### 3. 活動内容

#### (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

《テーマ》 活動計画・内容》グローバル人材育成に向けた国際理解教育の実践・防災教育の実践  
・「総合的な学習時の時間」に位置付け、JICA の講師を招聘して、各学年1回ずつ授業を行った。「あしなが国際交流」は1学期に3年生の各クラスで、2学期に2年生の各クラスで英語による交流活動を行った。「留学生が先生プログラム」は、3学期に3年生で全クラスで行った。昼休に近隣の大学から留学生を招き、年間180回の英語交流を行った。

・国際理解教育の実践により、生徒が異文化理解を深め、自分と異なる文化や言語をもつ人たちと積極的に関わろうとする態度が醸成しつつある。

・総合地域防災活動（デイキャンプ）をとおして地域の中での担い手としての意識を高めた。

5月6日に JICA 国際協力推進員の方を招いて、コスタリア共和国での2年に渡る国際協力活動や現地での様子、貧困や環境などの社会問題についてスライドを交えながら分かりやすくご講演をいただいた。



7月11日に、和田中 ESD（国際理解教育）の一環として、あしなが育英会と連携した国際理解教育特別授業を3年生の各クラスで行った。留学生4名を各教室に迎えて、自国文化等の紹介を英語で行った。中には、空手やけん玉、百人一首やお茶など実践を交えた交流をしたグループもあり、素晴らしい交流



6月1日より、翌年の2月28日まで中央大学の留学生のべ10名が、給食の時間から昼休みまで各クラスに入り、英語で生徒と自由に会話をする取り組みを年間180回行った。各国の特色を描いたヴィブスを家庭科部が制作して留学生に来てもらい、帰国する際にはプレゼントした。



3月18日、4人の留学生の方を招いて、3年生の各クラスでそれぞれの国を紹介してもらった。



7月29日に「英検2級・準1級対策講座」を留学生の方を招いて行った。当日は、4名の生徒が約3時間英語で話す取り組みに挑戦し、見事にやり終え、各自達成感を味わった。



7月2日(土)、本校で初めてとなる防災キャンプを地域支援本部との共催により実施した。「大震災発生時における中学生の役割の理解と実践的な行動力の向上」を主テーマに掲げ、防災キャンプの前半は生徒と保護者、地域の方々が12班に分かれて、避難所運営の初期段階に必要なことを話し合ったり、具体的な対応策を検討したりした。また、後半は避難所の受入体制、物資の受入や管理、トイレの確保、応急処置、食料の配布、寝床の改善、ペット対応、電気自動車の活用など班ごとに深めた内容に基づき、実践的な訓練を行った。実際に体験してみると想定通りにはいかないことも多いのですが、さらにアイデアを出し合い、工夫することにより解決する姿が数多く見られました。地域の方々と議論を重ね、主体的・積極的に行動する中学生がたくさんいたことも頼もしく思いました。いつ発生するかわからない震災への備えは大切です。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）